

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 金沢市立額小学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒921-8146
石川県金沢市額乙丸町イ 41

E-mail nuka-e@kanazawa-city.ed.jp

Website http://cms.kanazawa-city.ed.jp/nuka-e/view.php?pageId=201

児童数 男子 213 名 女子 212 名 合計 425 名
児童の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

当校は平成 28 年度にユネスコスクールの認定を受け、総合的な学習の時間を中心に人と社会・自然・世界と関わる力の育成を目標とした。

具体的には、金沢との関わり方を柱に、①伝統に係わる活動、②平和・人権に係わる教育、③国際理解に係わる学習を行った。

① 伝統に係わる活動（3, 4 年生）

金沢の偉人 あらかじめ調べていた人物について、ふるさと偉人館で詳しく知る活動をおこなった。当日は、金沢のたくさんの偉人について館の方に積極的に質問する姿が見られ、金沢の偉人を身近に感じる一日となった。

伝統工芸 興味を持った伝統工芸ごとにグループを組み、調べ活動をした。水引細工、金沢和傘、金沢仏壇などを調べ、壁新聞を作った。それを、下学年に紹介する発表会に取り組んだ。

伝統文化 金沢や日本の伝統文化について興味を持ったものを調べた。能、狂言、歌舞伎、華道などを調べることが出来た。その後、6 年生を送る会で、狂言『附子』を演じることに取り組み、全校児童に狂言のおもしろさを伝えることが出来た。

② 平和・人権に係わる教育（5年生）

バリアフリー体験住宅「ほっと安心の家」を見学し、最先端のバリアフリーとユニバーサルデザインにはどんなものがあるのか学んだ。車椅子体験も行い、動きの不便さを実感した。また、高齢者疑似体験では、高齢者疑似体験セットを装着し、日常の生活での動きを体験した。体験を通して、お年寄りに親切にする必要があることを実感したようである。

その後、額地区にある公共施設をグループ別に見学した。額校区が人々にとってより住みよい町になるにはどうすればよいか、一人一人が十分な点や不十分な点について考え、不十分な点についてはどう改善すればよいか、その対応策を考え提案書にまとめた。最後に、ポスターセッションで自分の提案について発表した。学習を通して、バリアフリーのみならず、世の中の全ての人々が人間らしく、気持ちよく生きるためにユニバーサルデザイン化するという点について、知識を深め、考えることができた。

③ 国際理解に係わる学習（6年生）

金沢を中心に自国の文化を調べたり、他国の様子について知ったりすることを通して、より広い視野をもち、自らの世界を広げていくことを願って、テディベアプロジェクトに参加した。単に自他の文化についての知識を増やすだけでなく、国の壁を越えて、様々な人たちとつながる楽しさを味わわせ、相手を意識しながら自分の思いを伝え合うことで、自他のよさを感じ取れるようにしたいと考えた。最初は百万石祭りや金沢に関連することを中心に日本文化について調べ、金沢や日本のよさを知った。次に、それまでの学習で学んだことを、英訳したり写真を活用したりしてまとめ、交流相手であるイスラエルや台湾、スペインの学校にインターネット掲示板を用いて伝えた。また、ぬいぐるみ留学生が子ども達の家にもホームステイした様子を写真や日記で交流する取組なども行った。

何度も交流を重ねることを通して、日本と違う言語や文化（食べ物・習慣など）があることを知ったり、世界の仲間とつながることの楽しさを実感したりすることができた。

①
の
写
真



②
の
写
真



③
の
写
真



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

テディベアプロジェクト、華やか金沢 (書籍)、のびゆく金沢 (書籍)、ふるさと偉人館 (書籍)、金沢育ちの野菜果物 (書籍)
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

額小学校では総合的な学習の時間を中心に教育課程に位置づけている。3年生は地域の伝統文化・伝統遺産と食育、4年生は地域の伝統文化・伝統遺産、5年生は人権・平和、6年生は国際理解・文化多様性の内容で位置づけている。

社会などの他教科との連携を図りつつ各学年に合わせた内容に設定している。そして、年度末に学習活動を振り返り、次年度の教育課程を作成している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

今年度よりユネスコスクールとしての活動を、掲示板を使って保護者などの来校者に発信している。年度当初にユネスコスクールの活動としてどのようなことを発信していくか話し、理解することで、組織的かつ継続的に活動に取り組めるようにしていく。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学期ごとに、児童と教員にアンケートで学習活動について自己評価を行っている。それを基に、よかったことや反省点を次の学期や次年度に反映させ、改善につなげることができている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

今年度より、総合的な学習の時間にどんなことを行ったのかを学校の玄関の掲示板に掲示し、時期や活動内容、成果を発信した。掲示板には写真や児童の書いたワークシートなどを掲示し、授業参観などお家の方や外部の方に見ていただけるようにした。

掲示板を見ていただいた方からは、「学校で行っていることがわかりやすくなった」、「児童の考えがわかってよい」などの評価をいただいている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

6年生のテディベアプロジェクトでは金沢星稜大学に協力していただき、海外の学校との交流を進めてきた。海外からの手紙を翻訳していただくことや交流の手伝いをしていただいた。また、星稜大学の学生に「世界が100人の村だったら」のワークショップをしていただき、6年生に日本人として世界の人々と親善を深めることの大切さを教えていただいた。

また、他の学年も地域の施設や工場を活用し、見学をしたり直接教えていただいたりして、地域との交流を行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)
※チェック事項 2-4 に対応

6年生のテディベアプロジェクトで海外のユネスコスクールとの連携を図っている。教師同士がメールを活用して連絡を取り合い、児童の交流の仕方を相談し、その学校、児童に合った交流の仕方で行っている。今年は手紙とテディベア、写真などを送り合う形での交流を行った。

また、星稜大学が中心となり、テディベアプロジェクトを行っている国内の他の学校とも情報を交換なども行っている。

- ⑧ ユネスコスクールによる効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動を続けてきたことで、児童は地域や世界との関わり方について興味を持つようになった。どんな国の学校と交流ができるのか、自分たちが住んでいる地域にはどんなものがあるのか自分たちで調べようとしている。また、教職員は地域や外国の事を知り、活用するために、地域の人や海外の人とのコミュニケーションをとるようになった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度の活動を基に課題を改善し全体教育、学年ごとのカリキュラムを作成する。総合的な学習の時間を中心に地域や自然・世界と関われるような学習を行っていく。今年度も活動内容は国際理解・文化多様性、地域の伝統文化・文化遺産、人権・平和、食育で行う予定である。各学年で来年度できる学習活動を考え、具体的な活動を変更する。

来年度も各学年で誰に学習内容を発表するか考え、学習内容を発信していく予定である。